

メンバー

大塚賢一 46才
木倉 博 38才
田代恵子 36才
安田豊太郎 32才
岸本陽介 29才

Mountaineering Ski

Vol.9 2001. 5/3-5 北アルプス白馬連峰

天候

曇り
晴れ
晴れ

紀行文

木倉 博
田代恵子
岸本陽介

写真&編集

大塚賢一

・・・今回の北アルプス白馬岳縦走山スキーツアーを振り返って・・・

3日とも晴天に恵まれて最高のツアーになりそれぞれがハッピーな気分になれたことと思います。特に白馬岳山頂からは雲海に浮かぶ白き嶺々の雄大な姿、これには私も今までに見たこともない素晴らしい景色に胸打たれる感動がありました。

私にとって5月のGWの北アルプス山スキー縦走は、一年の集大成であり、これに向けて色々なトレーニング・・・夏山縦走、クライミング、MTB、シーカヤック、トレイルラン、トライアスロンetc、すべてのスポーツを含む総合的運動能力&体力、瞬発力、持久力、瞬時の判断能力、その次の次を読む能力、そしてなにより「絶対に生きるのだ」という強い意志、それらを養い、そして学び、私のバイオリズ



雪少なき白馬山頂



巨大な雪庇

ムはこの5月に照準を合わせて回っているようなものである。それだけにこの北アルプス山スキーツアーに情熱を注いでいると言っても過言ではない。

今年は昨年同様に白馬連峰ツアーを計画し様々な資料を取り寄せて、半年前から天候に合わせていくつものツアー縦走を計画していた。

当初の計画とは多少ずれがあったが、日本3大雪渓(針ノ木・剣・白馬)の白馬大雪渓を登り(私はこれで3つともすべて登ったことになる)雪倉岳からの6kmに及ぶ大滑降、辛かった乗鞍へのシール、アイゼン、スキーザック固定、スキーを履いてのハエマツ越えetc、今となってはどれも素晴らしい思い出のページである。

この縦走に参加されたメンバーには、私の

言葉が辛く、きつくあたった一面も多々あったことと思うが、山の天候が急変して最悪の事態を少しでも避けるために、励ますつもりで言ったのであってその点は考慮してほしい。それだけに北アは一つ一つがすべて巨大でちょっとしたミスでいくつもの人間を飲みこんでいるのだから、なんとかみんなを無事に目的地まで連れて行き、そして下山させようと思って言ったしだいである。

そんなメンバーに敬意を表するしだいであるとともに、各個人の性格・行動・レベルもバラバラであるが、なんとかついて来れたことは各個人への自信につながるであろうことと思う。

また今回の自分の良点・反省点などをよく把握してもっともっと飛躍してほしいと思う。

何はともあれ、縦走スキーツアー完走にカンパイ！！

<コース>

猿倉 --- 白馬尻 (キャンプ泊) --- 大雪渓 --- 山頂 --- 三国境 --- 鉢が岳 --- 雪倉避難小屋 (泊) --- 雪倉岳 --- 雪倉の滝 --- 乗鞍岳 --- 天狗原 --- 樽池 --- 猿倉



猿倉から大雪渓へと延々とシール登行が始まる



鉢が岳山頂より素晴らしい雲海

当初の予定では、

1. 樽池から入り正城大ヒュッテのあたりでテント泊。で天狗原を登り乗鞍岳から蓮華温泉に滑り込む。2日目に雪倉へピストン、3日目に乗鞍岳へ登り樽池まで滑り込む。

2. 天狗原で天候が安定していれば、乗鞍岳・小蓮華・三国境・雪倉岳・蓮華温泉のロングコース。

を考えていたが、猿倉のゲートがオープンしていたので急遽予定を変更した。

そこで色々でプランを立て直した。

1. 白馬尻でテント泊、大雪渓・山頂・三国境・雪倉岳・蓮華温泉 (テント泊) 乗鞍岳・天狗原・樽池、または乗鞍岳・小蓮華・金山沢・大雪渓・猿倉。

2. 白馬尻でテント泊、山頂付近で天候不順なら杓子岳・鑓ヶ岳・大出原 (テント泊)・小日向のコル・猿倉。

3. 白馬尻でテント泊、山頂ピストン。

しかし、結局のコースは上記の通りである。まあこの初心者メンバーでこのコースを完走出来たのは上出来だろう。

また、来年につなげるいい経験になった、来年は新穂高から入り双六をベースに三俣蓮華、黒部五郎へテント泊、最終は槍ヶ岳から飛騨沢高低差1500mを滑り込むプランだ。そしてその次の年にはいよいよジャパンオートルートへアタックする予定である。

Bird Angel 田代恵子の白馬連峰山スキー



最高だぜい~

3日 AM2:30
姫路のポプラ集合。
このところ毎週の
ように早朝集合して
いるので、「紅一点の
登山隊」とポプラの
おねーちゃんにも覚
えられ、割り箸やら、
ゴミ袋をサービスし
てもらい、大塚特製

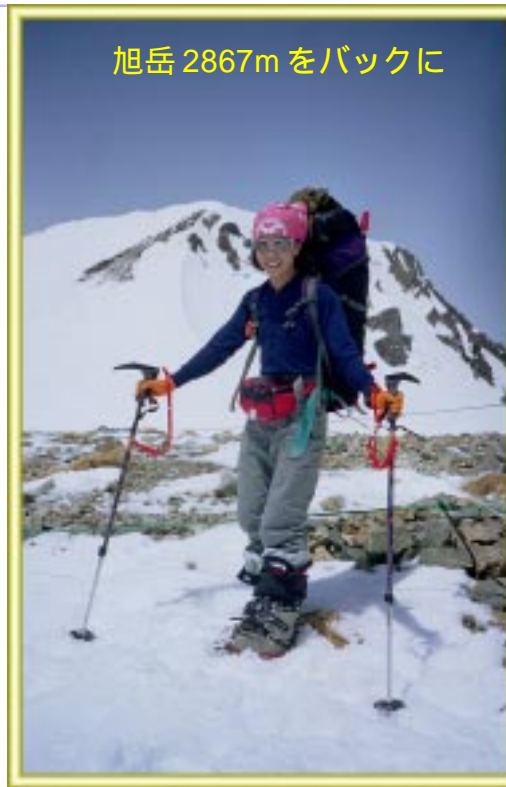
地図をコピーして、いざ出発!

この日はお天気が悪く、「どうする? 温泉でゆっくりする?」などと迷いながらの道中でしたが、現地に着くと、やっぱり足は山へ・・・。「とりあえず猿倉を見に行こう!」と向かうと、意外にもたくさんの車、そして登山者。これは私たちも行かなきゃ!と、急きょ、予定とは全く違うコースでしたが、お昼も食べずにスタートしました。



白馬尻にてキャンプ

1時間ちょっとで、白馬尻に到着。ここには既にたくさんのテントが張ってありました。ここをベースキャンプにして、ピストン登山しているようなグループや、学生らしき大団体など、た



旭岳 2867m をバックに

くさんの人がいました。ここから上はガスっているし、お腹もペコペコだったので、私たちもここにテントを張ることにしました。そして、いつもの大宴会。だだっぴろくて、何もない所だったので、ちょっぴりトイレに困りました。

夕方からは雨、そして強風・・・どうなることやら・・・と心配していましたが、翌朝起きると、昨日とはうって変わったの快晴。ヤッター!! 光がキラキラ射して、山がとっても綺麗です。そんな景色を眺めながらのコーヒータイムは、なんとも幸せな一時でした。

そこから、日本3大雪渓のひとつである白馬大雪渓を登りました。前方にきつい斜面がずーっと見えています。きつい! 登っても登っても・・・と言う感じでしたが、マイペースで登り、お昼前には白馬山荘の下に到着しました。“白馬山荘”って私の想像していたような山小屋ではなく、とても大きくて、ホテルのようでした。

下の方に雲海が広がっていて「なんて綺麗なんだろう!」と眺めていると、一瞬の後には、パーっと上の方の雲がのいて、白い山々が顔をだしました。ワオー、なんて綺麗な! なんて美しい景色なんでしょう・・・!! 感動ものでした。

この時、安さんがうーんとバテていたので、ここで、この美しい景色を見ながら、ちょっと早いお昼ごはんを食べることにしました。「もう、下山したい!」とまでバテていた安さんでしたが、ご飯を食べると元気

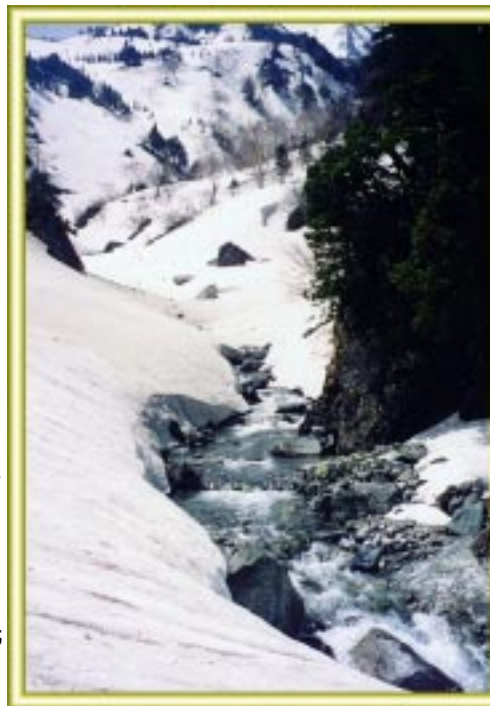
復活！「あと少しで頂上、その後は滑降だから」と言う励ましの言葉で、再び頂上めざして出発しました。

しかし・・・そこから少し登ると2932mの白馬岳山頂で、素晴らしい景色だったのですが・・・雪がありません。ここから大滑降の予定だったのに・・・。残念・超残念。また担ぎか～。
ガッカリしながらも仕方なく、担ぎで三国境まで行き、少し滑っては、また担ぎと、滑降ならすぐなのに、結構時間がかかってしまいました。楽しみにしていた蓮華温泉までは、たどりつけないかな～？という感じになってきました。今日はどこかでビバーク？！

鉢が岳への登りも、結構きついガレ場で、岩がもろく、両手を使って慎重に登りました。板の重みが肩にずっしりで、もう蓮華温泉どころじゃないぞ！って感じでした。

鉢が岳の頂上で休憩している時に、下の方に非難小屋を発見しました。「エッ？どこどこ？」とみんな嬉しそう。「今日はあそこに泊まろう！開いていればいいんだが・・・」と大塚さんが言った時の安さんの喜びようったら・・・よっぽど疲れていたんですね。

綺麗な、広い非難小屋で、おまけにトイレつき。先客3人パーティがいましたが、快くご一緒させてくだり、ほっと一息。快適な2日目の夜を過ごし



た。キクチャン秘蔵の2本の貴重な缶ビールを皆で仲良く??? 分けて、カンパ～イ。

3日目もいい天気。まずは雪倉岳に登り、素晴らしい景色を堪能した後は、待ちに待った大滑降。標高2600mから1600mまで一気に滑ります。雪質もよく、ルンルン、メッチャ楽しくって、気持ちいいんです。広い1枚バーンは私のもの！とばかりに、クレパスをよけ、急斜面もなんのその、あっという間にくだってしまいました。

素晴らしい景色の河原でランチタイム。ゴクゴク、川の水を飲んで、顔を洗って、リフレッシュ。あー気持ちいい。この後に地獄が待っているなんて、誰も思いませんでした・・・。

ここから、乗鞍岳を目指します。急な斜面がガーンとそびえたっていて、ほんとにこれ登れるの？って感じでしたが、2時間で登れると聞いていたので、「よし、頑張ろう！」と登りはじめました。が、ホントきつい斜度です。今回初のシール歩行ですが、直登なんてとんでもなく、私の大嫌いなジグザグ登りばかりです。“ズルッ・ズルッ”とずり落ちてしまって、なかなか登れません。皆は先に行ってしまって、見えなくなるし・・・1人で雪と格闘です。けど、なんとか無事に

クリア。一歩ずつ慎重に登りますが、ちょっと気が抜くと“ズルッ”と滑ってしまいます。安さん

も、何でもなさそうなところで、ずっこけて、5 m の滑落をしていました。(内緒よ！)

滑らないようにと気を使うため、精神的に疲れます。ここで、ようやく装備変更の許可が。“スキー引っぱり、アイゼン”この方が私にとっては、よっぽど楽でした。でも、ここからもまだまだ急斜面が続きます。何が2時間だー！もう2時間以上たっているけど、まだまだ頂上なんて見えないぞー！！



厳しい乗鞍への登り

空が広がり、ようやく頂上かな？と思い、ニッコリあがってみると・・・「残念でした。まだ まだ だよー」とキクチャン。そう、乗鞍岳はもうひとつ次のピーク。斜度は緩くなっているけれども、まだまだ頂上さえも見えませんが、「いったいどこなんだー！！」

斜度が緩くなり、少しは楽になりましたが、今度は、ハエマツの上を歩いたり、トラバースに失敗して、板を担いでハエマツの中を登りかえしたり・・・と面白い体験もいっぱいありました。そして、ようやく、ようやく頂上にたどりつきました。あの、サロモンX-アドベンチャー長野大会の時に見て感激した“月に輝く白馬大池”は、今は一面真っ白な雪の中でした。

もう、この時点で5時をまわっています。帰れるかしら・・・？大塚さんにあせりが・・・。

装備変更。ここからは、樽池スキー場まで



スキーを履いたままのハイマツ越え
(ハイマツさんごめんね)

の大滑降です。皆の準備ができたところに、ふと見ると、疲れ果てた安さんが、何もせずに、ぼーっと座り込んで、放心状態です。“ぶちっ！”大塚さんがぶち切れしました。「何やっとなじゃー、はよせんかっ！」とザックを投げつけて怒っています。怖い。めちゃ怖い。・・・私は逃げとこーっと。皆で安さんを手伝い、出発！ですが、いきなり、すごい急斜面です。これは危ないと思い、私は横滑りでズリズリ、ゆっくり降りました。思ったとおり、安さんは一度こけて、その後動けません。これは仕方がない・・・と思っ

ると、大塚さんが「行けー！直滑降じゃー」と叫んでいます。なんぼなんでもそら無理やで・・・と思っていると、なんと、安さん、本当に直滑降で突っ込んでくるではありませんか。そし

て、みごとに成功です！こんな急斜面を・・・凄い！凄過ぎる！もう、行くしかなかったのだろうけど、凄い勇気です。私には絶対できないや・・・。

広い大斜面を、自由に、好きなところを滑りおり、天狗原へ。ここはヘリスキーの発着点らしく、ここからは、たくさんのシュプールがついています。夕暮れで、雪もややかたくなり、滑りにくいったらありません。もう足がバンバンです。

そして、延々滑って樽池スキー場へ。ここまでくると、もう雪がありません。スキー場で、横にはリフトがあるって言うのに、板を担いで歩かなくてははいけません。

また、これが長いんです。板の重みがずっしりと肩にくい込んできて、もうヤダーって感じです。

安さんは、驚異的な速さで“ビュー”っと走り降りていきます。やっぱり変なやつだ！！

少しずつ、みんなから離され、とうとう1人ぼっちになってしまいました。そして、あたりがだんだん暗くなってきて、なんだか、悲しくなってきました。アドベンチャー長野大会の時も真夜中にここを走ったなーと思い出しながら、とぼとぼ歩きました。

後少し・・・の所で、陽介が迎えに来てくれました。「もっと、はやくきてよ！」と心の中で思いながらも、「ありがとう」と微笑み、ようやく到着です。あーしんどかった。最後の担ぎのくだりで一気に疲れてしまって、もう動けません、ぐったり座り込んでしまいました。あたりはもう真っ暗、Pm 7時を過ぎていました。

ここからタクシーで猿倉まで移動でやっと我がハイエースに到着です。

温泉につかったら、ちょっと元気回復。そして、ビールを飲んだら、いっぱい回復。ここは信州、私の大好きな馬刺しともつ煮込みで、すっかりご機嫌になりました。ご機嫌になりすぎてしまったかも・・・。

いろんなことがあった、長い・長い3日間でした。みなさん、お疲れさまでした。そして、ありがとうございました。私にとって、楽しい、そして貴重な体験となりました。夏山も知らず、今年、山を始めたばかりの私を、北アルプスにまで連れてきて、引っ張ってくださった、WHITE BARDのみなさん、本当にありがとうございました。

岸本陽介の白馬連峰縦走スキー登山

昨年夏に荒天のため山頂を踏めずにいた白馬岳が呼んでいる・・・。



姫路を3時に出発。この二日間、仕事の合間も天候ばかり気になっていた。実際未だに降り続けている。大型連休で交通量も多く、豊科、八方方面へと到着したのは既に昼近くになっていた。途中バスの天井に雪

が積んでいる事を思えば、(今は晴れてきたが)今日登るのは少々危険かもしれない。

リーダー大塚さんのプランでは、乗鞍、蓮華、(天狗平)三國境、白馬のルートを主体にしているようだった。中央ALと異なり、登山届けは必要ない。プランを変更を考えながら車を走らせる。猿倉へと向かうと登山道が閉鎖されておらず、急遽猿倉から出発となった。まるで夏山登山の賑わいのような猿倉駐車場を後にして、我々は雪渓を登る。スキーは引っぱり。アイゼン装着である。シールでも充分登れるだろうが、肉刺を警戒してのこと。

リーダー大塚さん、安田さん、お恵ちゃん。僕、そして木倉さん(とんでもない体力の持ち主。鉄人である。今回サブリーダー。)みな、順調に登ってゆく。行く手には常にガスが・・・。1.5時間ほどで白馬尻。安全な場所でテント設営。安田さんの4人用のテントで5人寝て、荷物は二人用のテントへ。いざ乾杯。皆体力あるので出るは！出るは！ビー

ルが・・・。1人で六本セットで持って上がっているのには驚きである(重たそう)。白馬尻居酒屋はご盛況。(発泡酒嫌いって言う人は・・・誰ですか。)

明け方まで降っていた小雨もやみ、大雪渓が見事に朝日を浴びて輝いている。

スキー引っぱり、アイゼン装着である。夏に雪渓を下って嫌になったが(長い!!)5月の連休は夏にも増して長かった。軽装な登山者とほぼ同じペースで登るも、メンバーはバラバラとなる。

岩室地点で小休止。皆ばててきた。休みを繰り返して、肩の小屋(町営)到着。最高な景色をカメラに収めるが、安田さんがかなりばてており、進退が問われた。そこでラーメンタイムで復活!前進。

白馬山荘、山頂と夏山のような賑わいである。僕は念願の白馬岳山頂も踏め満足である。

雪倉方面には昨年、いや雪の少なかつた一昨年と比べても雪が少ないように思われる(僕は始めてだが)。



杓子岳 2812 m と 鑓ヶ岳 2903 m



雪倉岳 2610 m 山頂

三國境までザック固定。少々滑って鉢ヶ岳へ。夏路もなかなか通れず、回り道を繰り返しながら雪倉への登りにとりつく(途中雪を踏み抜いて何度も転倒。榛松の罫は僕だけ・・・)。

蓮華温泉に到着予定だが、2時間で雪倉を登りきるのは無理だろう。安田さんもかなりばててきている。おまけにガレ場の登りでお恵ちゃんはビビっている。(何で??クライマーなのに)

『今日は雪倉の避難小屋で泊まろう。ほら、見えるやろ』(大塚さん)『何処!何処!! -』(安田さん、すごうれしそう)そんな会話を経て、雪倉避難小屋到着。

雪倉の避難小屋では、既に先客が三人もいた。何しろゴールデンウィークなのだ。

(でも此処まで来る人は少数である)バテたやっさんは大変嬉しそう。僕も蓮華までは行けると思わずにいたのでホッとす。

木倉さん秘蔵のビール(発泡酒)をみんなで仲良く(仲良かったかな??)分けて、乾杯!。先客もい

るので騒げず早々に撃沈となる。

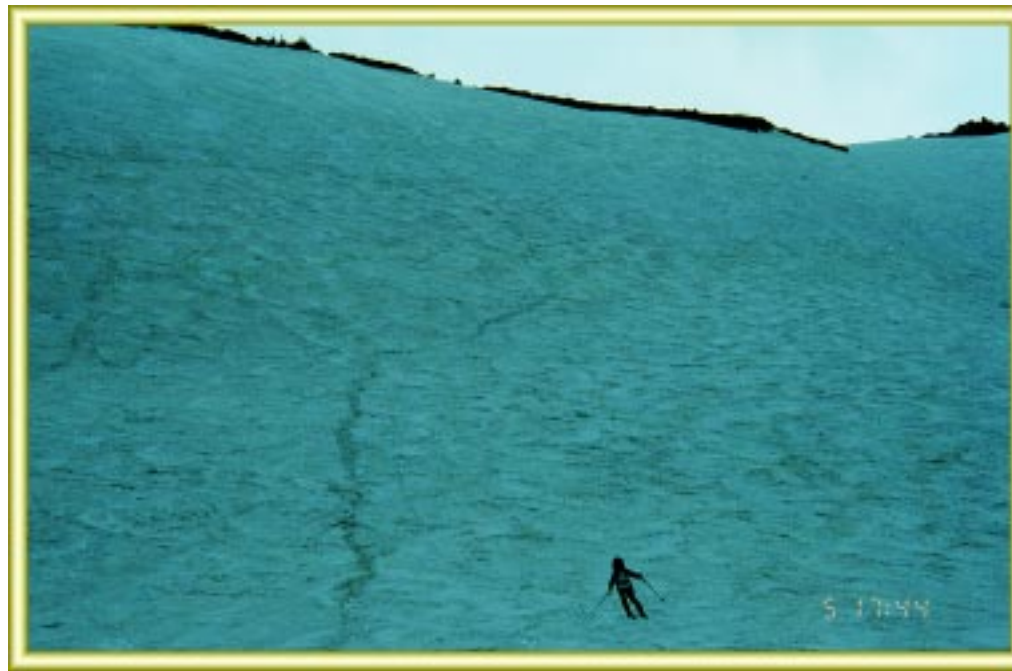
北ア三日目の朝！天気は最高で、早々に雪倉へ登頂。『何て素晴らしい景色か！！』毎度の事ながら山の朝は空気も清冽で最高。

山頂で地図読みの練習をして、(誰か読めず！誰?)いよいよ待ちに待ったスキー滑降である。2600mから標高差1000mの大滑降！。雪倉山頂付近は全体に雪がべったりついており、毛無山のようなものである。広く広大な斜面を我が物！とばかりに滑降していく。とても文章に出来ない快感！。クレバスの刺激付き??

蓮華を目指して滑降していたがとてもわかりにくいので、早めに乗鞍岳へとコース変更。そのおかげで素晴らしい河原に出た。(コース上なのだが)天気も良く、最高のラメントタイムと大休止。川の水で汗くさいシャツを洗ったりと・・・ここまでは極上の時間でした。

乗鞍岳への登り返し・・・昨夜雪倉の避難後屋で山頂まで2時間と聞いていたから頑張ったんだけど・・・僕の苦手なシール登行！殆どシール限界斜面をジグ切って登ってゆく。安田さんは驚異的に(急に元気になったなあ)まっすぐ登っていく。大塚さん、木倉さんは慣れたもの、僕、恵ちゃんは手こずっていた。(下に滑り降りるんだったら負けないんだけど)もう、10メートル進んでは「ゼーゼー」の繰り返し。益々きつくなる斜面！。

『よーし、装備変更や！。滑落するなよ！』大塚さんの声が聞こえる



スプーンカットと化したボコボコに乗鞍の急斜面

～～。(ここまでに大分ばてましたが誤魔化せるとホッとしました)。アイゼン・スキー引っぱりは得意である。恵ちゃんと励まし合いやっと山頂へ！！。??未だ山頂が向こうにある??暫く理解できませんでした。乗鞍山頂が遠い。到着したのは一つ前の尾根でした。安田さんは既にバテバテです。飴を舐めたりと休憩。

みんな着いて来い～、と紅一点ケイちゃんが引っぱります。女性だけどスゴイ馬力である。『陽介！先頭交代！』で山頂まで坪足作り。途中白馬大池が見えるかと

楽しみにしていたけど、只の雪原と化していた。山頂までの登行はどんどん元気になっていく自分が面白かった。なにしろ、誰も歩いていない斜面に自分が先頭なので気持ちがいい。

しかし、時間は5時頃になってます。大塚さんにも焦りの色が見えてきました。

さあ、滑降！とおもっても、安田さんがかなりばてている。あ～座り込んでもた。ついに大塚さんの爆発です。『何やっとなやー！早うせんか！。陽介！アイゼン持ったれ！』と言いながらザックを持った瞬間！『なんや！！この軽いザックは！！』思わず投げてしまいました。(ああ、怖い。でもやっさん頑張れ！)

みんなで励ましながら下界への滑降開始です。いきなりの急斜面、疲れた足。やっさんがいきなり取り残されます。『そっから、直滑降で来

い！』 (誰が言ったんでしょうか?)

そら無理やろ。思った瞬間、安田さんの華麗な直滑降です。僕も真似しようと思わない斜面を荷物担いで。(彼の能力は訳ワカラン・・・)

山頂付近のハイマツに足を取られながら、天狗原への下山ルート探しです。(僕は、ハイマツに足を取られてスキーを担いだまま、逆さまに転倒してしまいました。とても1人で起きあがれません。ザックを外してやっと起きあがる事が出来、誰も見ていないと思ったら、木倉さんにしっかりと見られてました。ああ恥ずかしい)

何とか天狗原に到着し、(ここはヘリスキーの発着所) 梅池への滑降です。もう足はバンバンに張っています。みんな思い思いに最後のシュプールを刻みます。

梅池のスキー場ではピステンがかけてあり、ザックを担いだまま、カービングで滑ります。快適！！(舗装路と悪路の差ぐらいあるな)

最後、長い長いゲレンデをザックを担いで歩いております。みんな暗くなる表情！風景。夕闇が迫ります。ところがその時ピューっと安田さんが走って行きます。さっきまでのバテバテは何処に？(自分のアイゼン担げー！！) 心の叫び。

最終ケイちゃんをまって2001年の春がやって来ました。後はタクシーに乗って猿倉まで移動！。

風呂、居酒屋直行！！。過ぎていく冬に乾杯です。

最終、駒ヶ根まで車を走らせ、白馬に別れを告げました。『待ってる！白馬！』次も自然を楽しませてくれ！！

木倉博の北アルプス白馬連峰山スキー

この北アルプスのために今までトレーニングして来た！。



頑張るゾー！！

大塚リーダーのサブを勤める事が私に課せられた任務だからだ、新メンバー田代、安田、岸本の三人と来た。

大塚氏以外は、陽介が夏に来たのが初めての白馬である。

本格的なアルプス

でのスキー登山は3人は初めてである、どんな状況になるかもわからない、それと言うのも今、車で向かっている間は雨だ？、明日には天気になるとの事だが、風が強いかも知れない？、先週の中央アルプスでは恵ちゃんと安さんは高度になれていなかったらしいが、今回は行けるかわからない、誰しも疲労が溜まると体が動かなくなる、この事は私も3年前の立山で経験しているからだ。

辛い事ばかりがスキー登山ではないが、何よりも天気だ。豊科のインターを下車するとバスの屋根に雪が積もっていた！、上は雪だ！、取り合えず八方スキー場方面に・・・、大塚さんの指示で猿鞍の林道に向かう、閉鎖されていない、大塚さんによると、ここが開いていたのは初めてとの事だ、登り詰めると、50台ははるかに越える車だ、雪はこの小屋まで着いていた。

大塚リーダーはこれを見て、白馬尻まで行く事を決断！。

素早く着替えて、さぁ～っ行動だ！、引っぱりで行くが、すぐにアイゼンも装着した。しばらくしてスノーブリッジを越える頃、後ろから若い4～5人が追いつき右前方から3人ほど滑って来た。前の景色は果てしない雪渓だがガスが出ている。

2時間程で白馬尻に着く、周りには20張り程のテントが張られていた。良い場所がなかなか無く、かなり上で安全な場所に張る。大塚さんの2人用と安田君の新品の3人用の2張り、とりあえず夕食の準備をしてビールで白馬に安全登山を祈って乾杯！雨が降り出し、安田君のテントにみんな入り荷物を大塚さんのテントに入れて明日からの行動を話し合う。小雨が明け方までふっていました。朝はすっかり晴れていました。

さぁー行動開始！！。
テントをたたんでアイゼンで引っぱりで大雪渓を登りだしました。すぐに大汗！恵ちゃんはスロースターターか、少し遅れ気味、大塚さんと陽介はどんどん登って行きました。前は良く見えますが、なかなか追いつきません、3時間程して岩室に着き、ここで休憩、しかしここから安さんがばてる、顔が苦しそう。後続の人に次々抜かれ、大塚さんたちから大き



さぁ今から大雪渓へアタック開始だ！



大雪渓の登りは果てしなく長い

く遅れる。頂上小屋はもう直ぐなのに動けない。励ましてやっと着く。白馬山荘まであと少し、その下で昼にする。

大塚さんがここで「安さんがダメなら引き返す」と言われる、私たちは景色も良く、それでも満足と思い安さんに聞く、「もうだめか？・・・」、昼食をとり安さんが元気になる！

山頂に登る、沢山の人だ！景色は最高、しかしここから雪倉まで雪が少ない、滑っては行けないらしい、三国境までザック固定、ここから滑って約1キロ先の2504mまで行く、安さんは少しビ

ビリギみで有ったが何とか無難に来た。しかし時間的に目標の蓮華温泉に着くのは19時ぐらいか？。

ここから鉢ヶ岳まで、ハイマツの中を越えて行く、さらに滑ってカニ歩きで登る、そして長い下りをザック固定で降り、登る、しかしここで私と大塚さんから大きく3人が遅れる、何とか15分程して3人が来るが、安さんがバテバテだ！、最後の登りは岩場でガレっていて少し登りにくい。

恵ちゃんがビビリギみで安さんと遅れる、私がサポートしながら何とか登りきるが、ここから雪倉はまだ1時間かかる。テントビバークか？、と、その時「このコルに雪倉避難小屋があるは

ずや」とリーダー、安さんが大きな声で「どどこ」と叫ぶ！大塚さんによると、ここは快適な非難小屋らしいが、開いているか？また開けられるか？とりあえず行くと、先客3人がいて開いていた。

早々に荷物をかたずけて入る、今夜はここで私のもっていたビール2本とウイスキー700で乾杯だ！この小屋は中にトイレも有る！私はなぜかこの夜は疲れて早く休みました。夜は少し風が強く吹いていたが、朝は止んでいた。ゆっくりしてこの日は雪倉に登りました。この日も天気は快晴！四方の景色は抜群だ！、東に朝日岳が大きく見える、なんと素晴らしい景色なんだ。

地図を確認して蓮華温泉を目指して滑り出した。素晴らしい雪だ！まるで我々のグレンデのように滑る。あっと言う間に2200mまで滑り込んだ、ぞくぞくと山スキーヤーが登ってくる、左に迂回して、また右に、この辺りは斜度もきつい！しかもクレバスがあるので気を付けて滑らないと危ない、トレースを行くが、地図を見てもなかなか難しいコースだ。滝の方向へ滑り、下るとスノーブリッジを越えたら大きな岩だ！地図に書いてある岩だ、この下の沢で早い昼食にした。

天気は良いし暖かくて昼寝でもしたい程だ！ラーメンがうまい！！大休止の後ここからカニ登り、そして蓮華温泉に向かう、右にすごい斜面！大塚さんが「乗鞍や」ここから兵馬の平まで下ると上り返しが大変



厳しい乗鞍への登りが続く

なので、ここから登る事に・・・、シール歩行で登るが、ここからがシール歩行限界の登りで、安田君が突然七変化してがんがんで登る、反対に恵ちゃんは滑る滑る？大きく遅れだしました。陽介もこれは得意でなく暑さとしんどさにバテバテだ。

安田君が調子づいて5メートル滑落！しばらくして大塚さんが「装備変更アイゼン」でキツイ斜面でスキーを外し緊張する場面、みんな順調に行くが、安田君が遅れる、大塚さんがどんどん先に行く、「オレの壺足を辿ってこいよ～」、しかしあまりの遅さに「安さん何しとんどい！」はるか下であせる安さん。

恵ちゃんはこの方が得意で、陽介と順調に登る、しかし大塚さんは先頭なのに早い！、私が必死でつくのがやっとだ。一息入れて陽介、恵ちゃんは安さんを待ち、私が先頭交代で大塚さんと偵察で先行した。

雪が緩んで足首まで入るため、大変だ！。16時頃に乗鞍と思われたピークに着く、しかし乗鞍はまだ向こうで、1時間はかかるかも？、大塚さんも時間が気になる。

15分遅れでみんな来た。ここから恵ちゃんが先頭で行く！これが早い！私たちもついて行くのがやっとでした。以外に早く乗鞍手前のピークに着く、右下に白馬大池（雪原）が見えた。

ここから滑りだが、乗鞍の左を巻いて行く事に、ここで安さんはバテたのか装備変更にてまどる、「安さん！、ハヨせんかい！」陽介がアイゼンを持つ事に、大塚さんが彼のザックを持った時「何じゃ～この軽い

ザックは～こんなんでバテやがって！」とザックを片手で投げつけた。何とかしたい安さん、滑り出すとまた動けない、これを見た大塚さん、「彼の様子では急斜面のトラバースは危険や！」と、ハイマツの中を越えて向こう側に出る事にする、陽介君は背中からこける、私の前で、背中からこけると起きる事は出来ません。ザックを外して起きる陽介、陽介が起きた頃みんなは滑走準備が完了！。

いよいよ乗鞍滑走！、私が先に下りてビデオを回す、安さんを見た時、滑落の後が安さんの上に見えた？安さんが落ちたのか？、天狗原からはホームグラウンドに着きました。

リスキーヤーが入っているためシュプールが沢山有る、この先は樹林帯で、つかれた足には辛い。やがて梅池ゴンドラ駅に着き、18時を回れば営業も終わっていて、誰もいない。

林道を滑り、やがてゲレンデ！「わー何やこれ～、難なくターン出来る！やっぱりゲレンデは楽や～」ここを過ぎたら雪も無く、滑れる所まで滑ってゴール！辺りは薄暗くなり始めていた。

ここからは担ぎで下まで行く、安さんは突然走り出す！何やあいつ？走れるのか？、良くわからん？。



雪倉の大斜面を滑降

長い長いゲレンデを歩いて下りたら真っ暗でした。ここで携帯からタクシーを呼ぶ、みんなで猿倉駐車場まで行きました。

温泉へ直行！！八方のゲレンデを見ながら温泉で疲れをとる、そして上げればビールがうまい！。居酒屋で長く短かった3日間のあれやこれと話がはずんだ。

駒ヶ根SAでテントを張る事になり、2時頃休みました。

6時には起床！テントを畳んで12時半頃に我々の白浜トリアスロンの



杓子岳 2812 m

今回は天気も良く、景色も素晴らしいツアーになりました。安さんもバテバテでしたが、良くがんばりました。みんな忘れる事の無い3日間になるでしょう。